

MIC

情報通信 vol.14

(2006年10月発行)

MOODY
INTERNATIONAL

発行

ムーディー・インターナショナル・
サーティフィケーション株式会社
大阪事務所

〒532-0003 大阪府大阪市淀川区宮原4-1-14
住友生命新大阪北ビル13階
TEL:(06) 6150-0571 FAX:(06) 6150-0575

CONTENTS

1 「ITにおけるリスク管理」

2 特集 3 「マネジメントシステム = 4 運営」+ 管理」?

4 MICニュース ISO27001情報 世界のISO認証件数調査発表 Q & A

5 審査の現場から お客様紹介 (四国中央市) 新連載よみもの 「審査員の心理」

6 連載よみもの MCIレーエッセイ 「審査現場からの提案」 (審査員 丹羽 肇)

環境よみもの 「環境とISO14001」

7 お客様からのお便り 品質目標 - 建設業経理事務士 級合格」 (寺尾道路株式会社) 資源循環型社会の構築に貢献」 (株式会社コーハン)

8 研修コースのご案内 ちょっといっぱく コースのご紹介 /受講生からのお便り

ITにおけるリスク管理

MIC ITマネージャー 古沢 幹子

最近「内部統制」とか「リスク管理」という言葉をよく耳にします。それらの言葉とよく一緒に出てくるのが「IT」とい言葉です。昨年ISO27001が、そして今年にはJIS版でも発行され、情報セキュリティに対する関心が高まっています。

では、この「IT」はどのように「内部統制」や「リスク管理」と関わっているのでしょうか。「IT」が充実し、システムが整備されればリスクは下がるのでしょうか?

2006年7月24日NRセキュアテクノロジー株式会社の報告がいくつかメディアで取り上げられましたが、そこにはこうあります。「2005年度に企業・官公庁の計16のWebサイトを分析、発表した。分析の結果、個人情報などの重要情報への不正アクセスが可能と確認されたWebサイトは全診断数の約5割に達していることが判明した。」ウィニーによって企業の情報漏洩に対する危機意識は向上したようですが、上記の話からも推測できるように、多くの企業がネットを中心として「IT」に関するリスク管理はまだまだのようです。

ネットを中心に「IT」を取り巻く危機は日々変化・増大しています。情報を盗み取るサイトやメールの技術はどんどん巧妙化しています。アメリカのセキュリティ業界の見解では「ハッカー達の傾向は、技術を誇示する悪戯から、明らかに企業の経済活動にマイナスを与えたり彼らが利益を得るための犯罪に移行した。」と述べています。その危機を考えると企業は常に最新の動向を掴み、対策を試みなければなりません。

また危機の範囲も視点を変えれば、ネットに繋がっていないパソコンすら安全ではありません。データを小さなメディアにコピーしたりプリントアウトして持ち出すことも、立派な情報漏洩です。そして個人の携帯電話に入ったクライアントの電話番号も情報漏洩といえます。このように、企業が直面する危機は進化し範囲は広まって行き、内部統制「リスク管理」において、「IT」に対する企業の姿勢・対策が重要な要素になっていると言えます。

今回のISO27001発行を機に、皆様もご自身の会社のリスクを今一度見直されてみてはいかがでしょうか。



マネジメントシステム = 「運営」 + 「管理」？

認証取得後、活動がマンネリ化している、システムを効果的に運用できていない、などという悩みを抱えておられる管理責任者の方や経営者の方の声をよく聞きます。現在取り組んでいるシステムを見直したり異なる視点で見ると、新たな発見や問題解決への糸口が見つかるかもしれません。

今回は、次号にわたり前号のトップ記事に引き続いてマネジメントを取り上げました。システム活性化へのヒントになれば幸いです。



MIC認証一部 テクニカルマネージャー 石嶺 行英 Yukihide Ishimine

マネジメントとは

「マネジメント」は、日本語では「経営」あるいは「運営管理」となります。そして組織を「運営管理」する「仕組み」をマネジメントシステムと呼んでいます。一つの組織に必要な運営管理のやり方（仕組み）= マネジメントシステムは一つが良いと考えるべきでしょう。

日常の業務を思い出してください。一つの業務の仕組みに、品質、環境、安全、財務（コスト）など、様々な事柄が含まれ、あるいはかかっていますね。マネジメントシステムもこれと全く同じで、一つのマネジメントシステムの中にさまざまな事柄が含まれ、互いにかかわり合いをもっているのです。品質、環境など規格には様々がありますが、こうした規格は、特定分野を切り口としてマネジメントシステムを評価しようとするのであり、規格ごとに異なるマネジメントシステムを作りなさい、ということではありません。マネジメントシステムの大体のイメージが浮かんできたでしょうか？

さて、ここでマネジメント=「運営管理」についてもう少し詳しく見てみましょう。

「運営」と「管理」

私たちは、「運営^{注1)}」と「管理^{注2)}」という二つの言葉を組み合わせて、「運営管理」として普段何

気なく使っています。この「運営管理」という言葉は運営管理の仕組み = 「マネジメントシステム」を非常に良く表しています。言葉を換えると、マネジメントシステムとは文字通り「運営」に関する業務（プロセス^{注3)}）と「管理」に関する業務（プロセス）から成り立っている、と考えることができます。品質マネジメント規格に照らし合わせて検討してみましょう。

注1) 運営 組織（会社）や機構などをまとめ、動かす、機能がうまく発揮できるようにすること。

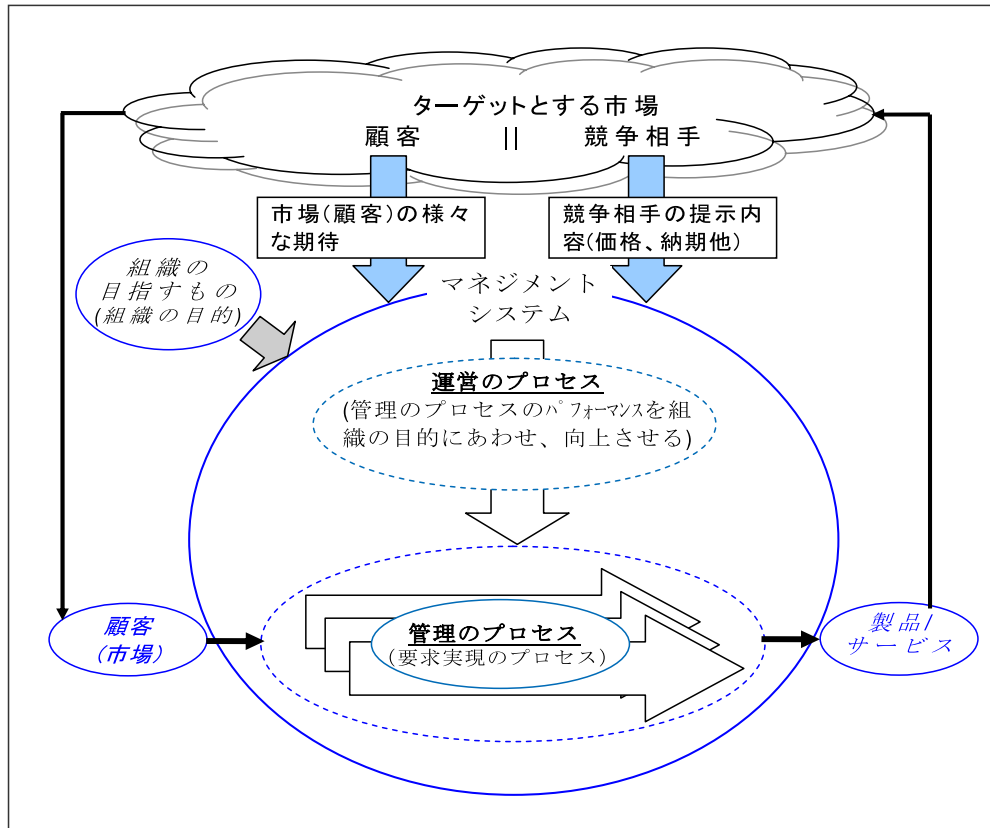
注2) 管理 ある規準などから外れないよう全体を統制すること。

注3) 「プロセス」と「業務」は厳密には異なりますが、文中では同じ意味で使っています。

運営に関する業務（運営プロセス）

代表的なものに、「品質方針・目標、ビジネスプランを決定する業務」や「マネジメントレビュー」、そして、「起業 会社立ち上げの業務」があります。経営者は、組織の目的 [5.3 a)] 組織を取り巻く状況（ターゲットとする顧客の期待、競争相手（同業他社）の出方など）を念頭に、自分たちの組織（会社）はどうするか、を経営者の判断として決定します（品質方針 [5.3] 目標 [5.4.1] の策定）。そして、決定事項を実現する為に、業務の仕組みを計画します [5.4.2 a)] 組織を取り巻く状況が変化（例：同業他社の値下げ、

図 1



市場の縮小したならば、それに対応して業務の仕組みの見直しを行います [5.6.2 f), 5.4.2 b)]

管理に関する業務 (管理プロセス)

代表的なものに「製造」、「購買」、「営業」、「設備保全」などがあります。業務の責任者は、経営者が決めた大枠 (業務の目的、目標) にしたがって、業務の遂行に必要な業務レベルでの決め事、その管理方法を決定し、日々の業務が決め事から外れないように対応します。主に「製品実現」に関連します。)

一言で言うと、「運営プロセス=組織を進むべき方向に導くプロセス」注4)、であり「管理プロセス=業務が決め事から外れないように、計画した状態を維持するプロセス」注5)となります。これをまとめると図1になります。

組織の力は総合力として現れる

このようにマネジメントシステム=「運営プロセス」+「管理プロセス」であり、組織の力は総合力 (システムの有効性) として現れてきます。どんなに管理プロセスがすばらしくとも、運営プロセスに問題があれば、優れた点を十分に使いこなせないし、運営プロセスがしっかりしていても、管理プロセスがうまく機能しなければ、組織の総合力は低くなってしまいます。システム審査は、最終的にこうした総合力を有効性というのさしを使って評価することを目指しています。

今回はマネジメントシステムの大まかな仕組みを「運営プロセス」と「管理プロセス」という考え方 (プロセスの分類) で見てみました。次回は、この考え方をを使って、マネジメントシステムの内容をより詳しく見てみます。

注4) 運営プロセスとは、組織をとりまく状況を理解し、その状況にうまく対応して組織を目指す目的・方向に向かって動かし、そのために必要な業務の大きな決め事 (業務の目的・目標も含まれます) を作る一連の活動を指します。

注5) 管理プロセスとは、業務が決め事通り行われ、業務の目的や目標から外れないように、結果を実現する一連の活動を指します。



ISO27001(情報セキュリティマネジメントシステム)情報

BS7799-2情報セキュリティマネジメントシステムがISO化され、昨秋ISO27001として発行されました。情報化社会である現在、組織がもつ情報はどの企業にとっても重要な資産であり、災害による喪失、情報システムのクラッシュ、外部からの不正アクセスによる改ざん、流失、喪失、意図的な社外への漏洩等の脅威に常にさらされており、また、情報通信技術の発展に伴い、この脅威は止まるところがなく、継続的なリスク評価、対策、見直しが求められてきております。情報セキュリティマネジメントシステムの目的は、これらの脅威から情報資産を守り、情報の機密性、完全性、可用性を継続的に確保維持するシステムを確立することにあります。

取得によって、取引先や顧客に安心感を与えることで、信頼性を高

め、企業イメージアップにつなげることができます。そして、セキュリティ対策に取り組んでいることで他社との差別化にもなります。また、社内での情報管理に対する意識向上や体制強化にもなり、社内外で大きなメリットとなります。情報資産に対する管理システムの確保、社内意識改革、対外的な信頼性向上のためにも、取得のご検討をされてはいかがでしょうか？ご興味をお持ちの企業の皆様は弊社までお問合せください。

尚、現在BS7799-2:2002を取得されている場合は、2007年7月23日までがISO27001:2005への移行期間となっておりますので、それまでに移行のお手続きをお願い致します。それ以降、BS7799は失効となりますのでご注意ください。

ISOが世界の認証件数調査を発表

ISOは、ISOマネジメントシステムの世界での認証件数を調査した“The ISO Survey-2005”を公表しました。この調査は、ISO中央事務局が1993年から実施しているもので、今回の調査は2005年12月末時点でのISO9001:2000(品質)、ISO14001(環境)、ISO/TS16949:2002(自動車産業)、ISO13485:2003(医療産業)の認証件数について集計されたものです。

調査によると、2005年末時点でのISO9001の認証件数は776,608件(前年比18%増)、国別では143,823件と圧倒的な認証数で中国が第1位、次いで98,028件のイタリア、そして53,771件の日本となっています。ISO14001の認証件数は、111,162件(1996

版・2004版総計、前年比24%増)。国別では、2位の中国から2倍近い件数の23,466件で、日本が1位をキープしています。

また、今回の調査ではISO9001のほぼ33%、ISO14001の31%の認証組織がサービス関連組織と、サービス業の進出が目立っているそうです。特に、これまで製造分野での取得が多かったISO14001が幅広い分野に広がり、社会的責任の概念が広く受け入れられていることの証拠かもしれません。尚、この調査の詳細については、ISOのホームページでご覧頂けます。

(<http://www.iso.ch/iso/en/commcentre/pressreleases/2006/Ref1021.html>)

Q&A ?



Q

ISO 9001取得後数年が経ち、当初緊張して受けていた内部監査も毎回同じことを見るだけで、被監査者、監査者側とも監査慣れして形式化しているように感じます。チェックリストに問題があるのでしょうか？

Answer

まず、内部監査の目的について考えてみましょう。次のうちのどちらだと思いますか？

活動が規格と適合しているかを評価する
組織の有効性と効率を評価する

どちらも正解です。システム導入期では、審査を受ける準備として、規格要求事項を満たすようにシステムが適合しているかどうかを判断するため、つまり「なりませんが、認証取得後、システムが確立・定着してきた段階になれば、システムの有効性をみるため、つまり「の監査に移行していく必要があるでしょう。マンネリを感じておられる組織では、取得導入時期の適合性をみるための内部監査を続けておられるのではないのでしょうか？

ISO 9004(改善の指針)にも、内部監査の目的を「の有効性のチェックのため」と書かれています。組織の状況によって、内部監査も進化させ、改善につなげていくことで効果的な運用が望まれます。IAF(国際認定評議会)審査の最適実施要領検討グループ資料では、組織のシステムを反映していない一般的なチェックリストは付加価値がないとあります。チェックリストも組織の状況に応じて改訂・進化させていくことで、効果

的な内部監査につなげることができるものと思います。前回の指摘事項など監査結果を反映させることや、監査対象部署の問題点を取り込むことも有効だと思います。また、指摘事項だけでなく、よい点も挙げて運用活動を推進することも、継続的改善につなげる重要な要素となるでしょう。

ISO 19011(監査の指針)では、「内部監査は監査中の情報によって変化し得る。チェックリストが監査の制限にならないことが望ましい」となっていますから、応用をきかせて内部監査することも形態化を防止するためには有効的です。

また、IAF資料では、内部監査の審査指針として「内部監査プロセスのマネジメント参画程度」があげられています。マネジメントの参画が薄い内部監査はマンネリになりやすい可能性があるでしょう。前号の特集記事で紹介させて頂いた山田建設株式会社の代表取締役社長である山田氏は、ISO専門誌で、「内部監査は審査の予行練習ではない。内部監査の目的は会社の検証であり、それを継続的改善につなげていく」と語られており、チェックリストの作成にも社長ご自身が関わっておられます。チェックリストを活用して効果的な内部監査につなげていってください。

四国中央市 様



四国中央市は平成 16年旧川之江市、旧伊予三島市、旧土居町、旧新宮村が合併して誕生した、全国屈指の製紙・紙加工業」の盛んな地です。名前の通り 四国の中央に位置している四国中央市は、北に瀬戸内海、南には山並みが続く自然あふれる地域にあります。

この環境をより良好な状況で、将来の世代へ継承していくことを責務と考え、平成 17年を四国中央市環境元年と定められました。自らが率先して環境に配慮した行政を推進し、豊かな自然と住みよい環境を育み、地球環境にやさしい持続可能な資源循環型社会の実現を目指すことを環境方針に掲げ、ISO 14001の取得に取り組み、2006年 7月、井原巧市長 (写真右)に弊社社長坂井喜好より 認証登録証明書が手渡されました。

市では、本庁舎、支所庁舎などにおける省エネ・省資源化を目指し、冷暖房の適正管理、職員のエレベーター不使用などの電気使用量削減、ペーパーレス化推進等によるコピーなどの用紙使用量削減、『eco通勤 day』導入などによるエコ運転の徹底化によるガソリン使用量削減などに取り組みおられます。また、身近なところから取り組めるコマメ生活の提案、環境啓発などを積極的



認証登録証明書授与式 (右 井原巧 市長)

に推進しておられます。

地球環境は一人ひとりが主役であり、行政、事業者、市民が連携をとって積極的に環境保全に取り組んでいかなければなりません。「四国のまんなか 人がまんなか」という基本理念の下、「四国一 質感の高いまちづくり」を目指しておられる四国中央市。市民自らの手で人と自然とが共生できる「地球にやさしいまちづくり」の実現に向け、今後もますます地域と協働しての取り組みを進められていかれるものと思います。

<http://www.city.shikokuchuo.ehime.jp/>

連載読み物



第 1 回

「はじめての訪問から開始ミーティング」

MIC品質審査部長 成毛 秀雄 Hideo Naruke

人間、だれでも初めての会社や、家を訪問するときには、多かれ少なかれ緊張するものです。このことは、ISO認証審査で訪問するときには、特に緊張感が高まるものです。審査という仕事、認証という制度、ということが審査員に精神的なプレッシャーを与えます。

お客様の会社 (組織) の玄関に入り、部屋に案内される過程で緊張感はさらに高まります。経営層、管理層、管理責任者はどのような人たちなのだろうか、これから始まる審査がスムーズにいくだろうか、システムに大きな問題はないだろうか・・・など、短い時間の間に様々なことが頭の中をかけめぐります。このことは、ベテラン審査員といえどもあてはまるでしょう。お客様も、同じような気持ちを持たれていると思います。審査員はどのような人なのだろうか、システム内で重要な指摘事項がでないだろうか。

こうしたお互いの緊張感の下、開始ミーティングが始まります。さあ、舞台が開幕されたという感じでしょう。開始ミーティングは審査の重要なプロセスですが、お客様にとってはこれから審査が始まるとの緊張感があり、特に

システム構築を担当された管理責任者の人たちは、多くの場合、審査の準備のための疲れもあり、前日も熟睡できなかったということもあるでしょう。

このような雰囲気の中では、審査チームのリーダーは、緊張感を和らげるような開始ミーティングの進め方が望まれます。開始ミーティングは長い時間をかけるものではありませんが、ミーティングが終わったときには、少しでも緊張感がほぐれ、少しでも友好的な雰囲気が作られたら、引き続き審査にもよい影響を与えます。

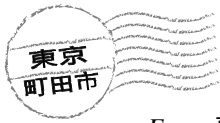
経験豊富な審査員は、開始ミーティングで雰囲気をよく理解し、これから始まる実地審査でどのように行動していくかと考えます。審査の手法、審査の進め方はすでに決められたものであり、これを変えるということではありません。さて、開始ミーティングが終わりに、事務所内や現場の視察にはいります。

次回は、これを考えてみたいと思います。



MICリーエッセイ

審査員からのエッセイをお楽しみください。



From 東京都町田市
丹羽 肇
(にわ はじめ)



PROFILE

専門分野 ISO 9001-電気、情報処理
経歴 日本アイビーエム大和研究所、株式会社
リコー

「審査現場からの提案」

お客様にとっては、ISOを認証取得されたから本番を迎えることになります。認証取得するまでは、程度の差はあれ、コンサル主導でマネジメントシステムの確立に焦点が注がれ、運用上未知数も多く、運用してみないと詳細が見えてこない。取得してからは自社自力で運用し、その効果をあげて行かねばならない。認証取得されたお客様に維持審査でお伺いすると、「上層部への風通しが良くなった」標準化で業務効率が改善された」とその効用を強調される。他方、「システムが定着しない」「日常業務とISO活動がまだ遊離している」「現場で記録がなかなか取れない」「製品不良率クレーム件数が思う程下らない」筈、

諸問題を抱えておられるのも事実である。これらの問題点はなかなか改善のきっかけが掴めないで停滞しているケースも多い。これらの問題点を解決する方法はないものだろうか。プレイクスルーするために、「541 品質目標」に準じて目標設定プロセスに踏み込み目標展開されてはいかがだろう。ただ、製品に関わる品質指標は大抵の企業では品質目標に織り込み済みのケースが多く、それでもなかなか目標達成ができない場合は、目標達成のためのアプローチにも目を向ける必要があるだろう。

品質マネジメントシステムはISO 9001の代名詞として使っているが、その「マネジメントシステム」の意味がよく理解されて

いない。品質方針、目標を定めその目標を達成するためのシステムと定義している。目標達成しなければ、システムがうまく機能していないことになる。目標設定しトップダウンで組織を動かしてステップアップするのが即効薬かも知れない。自社で抱えている問題点は部署単位で新年度目標設定の際、目標に含めていくことです。立てた目標を確実に達成するためには部署長の努力とマネジメントレビュー、内部監査を有効活用することは言うまでもありません。目標設定プロセスを有効活用し、システム全体のPDCAを回すことで継続的改善のスパイラルアップになるのではないのでしょうか。

連載 環境とISO14001

第12回 ライフサイクルアセスメント

MIC環境主任審査役 郷古 宣昭 Nobuaki Goko

今回からはISO 14001に関連する評価技術についてお話しします。今回はライフサイクルアセスメント(LCA)です。

LCAとはある製品について原料の調達から製造、使用、廃棄に至る全てのプロセス(ライフサイクル)で発生する環境負荷を総合的に評価する方法です。たとえば、洗濯機を考えた場合、ライフサイクルには主要部材である鉄板、プラスチック、電気・電子部材が資源採掘から始まって原料素材になり、各々の部品が作られるまでの工程、家電メーカーによって組み立てられ、洗濯機が製造される工程、包装され、量販店に配送される工程、家庭で使用される工程、更に役に立たなくなつて廃棄される工程があります。それぞれの工程で使用

される資源・エネルギーと排出する環境汚染物を逐次評価して行きます(左下図参照)。

この方法は環境配慮製品を開発するためには重要で、これにより極力環境負荷の小さい部品を調達し、製品が顧客に渡った後、廃棄される際にも環境負荷の小さい製品を設計します。環境配慮製品であることを示す(エコフレンドラベルとして知られている)タイプの環境ラベルではLCAによる環境データは必須の要件です。

LCAの全体手法はISO 14040シリーズにガイドラインとして紹介されており

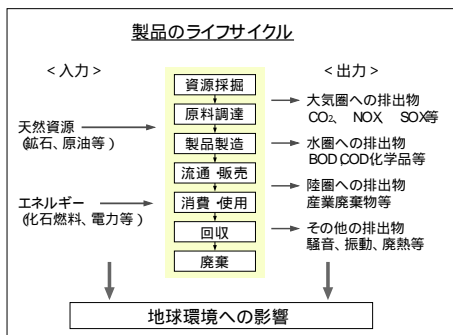
目的と調査範囲の設定
ライフサイクルインベントリ分析(LCI)
ライフサイクル影響評価
LCAの解釈
報告
クリティカルレビュー

からなり、その中心となるのがLCIです。これは主要な工程のフロー図を決定し、データを積算し、地球温暖化、酸性雨、オゾン層破壊、富栄養化等の項目ごとに環境影響度を算定します。データの積算には産業別、プロセス別のデータベース、たとえば鉄1トンを得るためのデータが産業界や産業環境管理協会

に蓄積されており、それを使います。

さて、ISO 14001との関連はと言うと環境側面を特定する際に影響を及ぼすことができる環境側面あるいは製品の環境側面を特定する際に関連してきます。付属書A3.1で示されている、考慮することが望まれる「設計及び開発」「包装及び輸送」「供給者の環境パフォーマンス」「原材料及び天然資源の採取及び運搬」「製品の流通、使用及び使用後の処理」など環境側面の重要度の推定に役立ちます。しかしながら、同じ付属書A3.1には「環境側面の特定において詳細なLCAを要求するものでない」とも書かれています。あまりに煩雑で膨大なデータの蓄積を必要とすることがその理由でしょう。

一方、LCAは現在考えられているほぼ唯一の総合的な環境影響評価法であり、その重要性はますます高まってきていることは事実であり、監査の指針であるISO 19011ではEMS監査員が身に付けることが望ましい知識・技能のひとつとして取り上げられています。したがって、EMSを運用している組織もLCAの概念を知り、自組織の前後の工程についての環境負荷を算出するぐらいのことは試してみるべきでしょう。





お客さまからのお便り



品質目標 - 建設業経理事務士1級合格

寺尾道路株式会社 (ISO 9001:2000 認証登録)
総務部 部署長 井上 時子

弊社は、京都府南丹市に本社をおき、主に建設工事を営んでおります。南丹市は、平成 18年に園部町、八木町、日吉町、美山町が合併して誕生した市で、京都府のほぼ中央部に位置し、北は福井県と滋賀県、南は兵庫県と大阪府、西は綾部市、京丹波町、東は京都市、亀岡市に隣接した緑豊かな自然に恵まれた地域にあります。

弊社は 2002年に ISO 9001を取得しました。私は経理を担当しており、平成 7年に建設業経理事務士 2級を取得しましたが、級試験は難しいとのことでそのままです。しかし、会社の「経営審査」点数アップ方針と品質目標により級試験に挑戦することになりました。「経営審査」とは、建設業が入札の資格などでランク付けされる審査のことで、ISO 認証取得や社員の所持する資格なども加点対象となります。

建設業経理事務士 級は、「財務分析」「原価計算」「財務諸表」の 3科目すべてに合格することが必要な難易度が高い資格です。このため、近くの協会テレビ講習を受講できることになり頑張ったところ、3科目の内、「財務分析」が合格しました。

初めに 3科目共全部不合格なら、あきらめていたかも知れませんが、「原価計算」ももう少しという手応えを感じたので、そのまま継続し、翌年には「原価計算」に合格しました。しかし、最後の「財務諸表」はとても難

しいと思い、再度テレビ講習を受講しましたが、翌年合格できませんでした。このままやめてしまったら、今まで合格した 2科目がむだになってしまうという思いで、さらに短期講習を受講し、4回目の挑戦で「財務諸表」に合格、建設業経理事務士 1級の資格を取得できました。「財務諸表」は相当手強かったのも、まるで名門大学に合格したような気分でした。



受験の為にテレビ講習では膨大な枚数の練習問題を渡され、繰り返し繰り返し勉強をしていくうちに問題に慣れてきました。夜中に電卓をたたいている自分の姿は「オタク」そのものであったと思います。計算問題では問題に慣れて来た頃、縦横、貸方借方の数字がぴったり合致、正解が得られ、爽快感を味わうことになりました。そうなるまで簿記という仕組みを納得し、簿記を発明した人を偉大だと感心し、計算問題が楽しいと思うようになり、全科目合格できたと思います。また、社長をはじめ、上司からのプレッシャーも無く、マイペースで勉強できたのが良かったと思います。本年度からは ISO 担当者に任命され、システムの維持改善に向けて努力していきたいと思っております。

資源循環型社会の構築に貢献

株式会社コーハン (ISO 14001:2004 認証登録)
橋本 幸和



当社は、2004年に ISO 14001 を認証取得しました。本社は名古屋市中区栄、テスト工場が北名古屋市にあります。プラスチック混合溶融システムによるリバースマテリアル事業を立ち上げ 10期目に入りました。

このシステムは、弊社独自の「K ミキシング機」により複数の材料を混合溶融できます。また異種材料の混合も可能で、廃プラスチックや廃ゴムの混合成型を簡単・迅速に製造します。「K ミキシング機」は「高速回転衝撃摩擦方式」を利用し、材料の比重差衝撃自発熱

で溶融するため外部過熱は不要で環境にやさしいリサイクルシステムです。容器包装リサイクル法、家電リサイクル法、自動車リサイクル法などに幅広く対応します。リサイクルパレットをはじめ物流、自動車、家電、水道、建設、電設資材関連でリサイクル製品に貢献しております。

本年 5月には東京ビッグサイトで開催された環境展に出展し、ISO 活動をとおして更なる改善・開発をめざして循環型の環境支援づくりを提案します。弊社独自のリサイクルシステムに自信あり。百聞は一見にしかず。ぜひ一度、テスト工場にいらして下さい。



<http://www.kohan-eco.co.jp/>



今回は、改善活動の一つで、その価値が再評価されている 5S について少しお話しします。5S は、日本語の整理・整頓・清掃・清潔・躰の頭文字を取って名付けられたものです。昔からよく使われる「整理・整頓」(2S) に清掃が加わり (3S) 次に清潔 (4S) 最後に躰が加わったものと言われ、更に習慣化、スマイルなどを加えた 6S もあるようです。ご確認まで各項目は次のようになっています。整理 - 分類・選別し、不要なものを処分・廃止すること。整頓 - すべてのものの配置場所を定めて収納し、必要なときに容易に取り出せるようにすること。清掃 - 職場をきれいにすること。清潔 - 整理・整頓・清潔の 3S を保つこと。躰 - 規律を正しく守る習慣をつけること。これらは一見簡単でごく当たり前のことのように思えますが、この基本的な原則に多くの組織が目を向け、海外でも取り入れている現場や工場があるそうです。5S によって、職場環境が美化・簡素化され、無駄な作業が削減されると同時に、社員のモラル・主体性が向上し、そこから業務の効率化、品質・安全性の向上が期待できるからでしょう。今一度、この基本的な理念を見直されてみてはいかがでしょうか？

また、アメリカの健康増進運動、ウェルネスクャンペーンの一つに 5S 追放運動というのがあるそうです。これは、病気 (イルネス) に対処し、ウェルネス (健康・元気・爽快) の維持管理を目指す運動で、Salt (塩)・Sugar (砂糖)・Snack (スナック、間食)・Smoking (喫煙)・Sitting (座りっぱなし) の 5S を避けようというものです。生活習慣予防にこちらも取り入れられてはいかがでしょうか？

研修コースのご案内

内部監査員研修コース

マネジメントシステムの維持・改善のために必須の内部監査。その知識とスキルを身に付けます。これから導入を予定されている企業や、既に導入され更に効果的な運用を目指される組織の皆様方にもお薦めです。

- 内部監査員コース 9001・14001・18001 (2日間)

【開催地】東京・大阪

【対象者】 品質・環境マネジメントシステムの導入を予定 検討している
システムをより効果的に運用したい
効果的な内部監査を行いたい

- 上級内部監査員コース 9001・TS/ISO16949 (3日間)

【開催地】東京

【対象者】 業務の改善・質向上を目指したい
効果的な内部監査を行いたい

審査員研修コース

審査員への最初のステップです。合格すると、審査員補になる資格が得られます。内部監査リーダーの方にもお薦めです。

- ISO9001 : RCA認定審査員研修コース (5日間)

- ISO14001 : RCA認定審査員研修コース (5日間)

【開催地】東京・大阪

【対象者】 審査員の目で内部監査を行いたい
内部監査グループのリーダーに任命された
将来審査員を目指している

教育訓練給付対象コースは、審査員研修コースに 1日 プラスした 6日間となり、受講料も異なります。詳細はホームページ、または弊社までお問合せください。

～ 受講生からのお便り ～

社内で審査員資格者 3名

品質審査員コース (2006年 5月) 受講
プロニクス株式会社 品質管理部 課長 竹内 章

先日、ISO 9001 審査員コースを修了し、審査員補の登録も終え、社内の QMS 先ほぼ任せてもらえるようになりました。弊社は昨年 7月に ISO 9001 を取得したのですが、コンサルタントの方に任せきりで、取得後に何をすればいいのかわかりませんでした。そこで、本コースの受講を決めました。

今回、私を含めて社内から 3名、ISO 9001 審査員コースを受講しましたが、3人共初心者で、講義についていけないかどうか不安でした。しかしながら、講師の方も 2名おられ、非常にわかりやすく説明して頂き、又、質問のしやすい雰囲気です。その都度丁寧に教わりました。講習を受けられている他の方々にも優しく助けられ楽しくとても有意義な 5日間でした。社内から 3名も受けさせて頂いた社長や 5日間の不在に対応してくれた部内のメンバーには心から感謝しております。名はその後ベトナム工場にも内部監査に行き、早速役立てておりました。

ムーディー・インターナショナル・サーティフィケーション株式会社
<http://www.moodygroup.co.jp>

東京本社

〒103-0012 東京都中央区日本橋堀留町1-4-2
日本橋Nビル 4F

TEL : (03) 3669-7408 FAX : (03) 3669-7410
E-mail : mi-certification@moodygroup.co.jp



大阪事務所

〒532-0003 大阪府大阪市淀川区宮原4-1-14
住友生命新大阪北ビル13階

TEL:(06) 6150-0571 FAX:(06) 6150-0575
E-mail : mic-osaka@moodygroup.co.jp